

自己評価票

事業所名 グループホームかわち野（2階ユニット）

評価機関名 特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療生協の事業所として利用者も含めて地域の組合員一人一人を尊重する理念を掲げている。職員は会議や日常の活動の場においても理念を共有・再確認しながら実践している		
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の組合員に支えられており1年を通じて多数の行事や活動に積極的に参加し交流を深めている。また散歩などの外出時にも挨拶を交わしている		
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として又職員個人としては組合員と共に取り組んでいるが事業所全体としてはあまり取り組めていない。地域の人から個別に相談のある場合はその都度応じている	/	/
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回取り組みの報告を行ない、参加者から率直な意見や要望を伺いサービスの向上につなげていくようにしている		
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとも情報交換し、研修や講習に参加している。運営推進会議にも出席していただき意見交換や相談にも乗っていただいている		
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員一同正しく理解しており身体拘束しないケアに取り組めてはいる。玄関の施錠はしていないが外出願望の強い利用者が数人おられ安全確保のために残念ながら内扉だけ施錠している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○ 虐待防止の徹底	職員が虐待防止の研修に参加した時は職場会議の場で学習会を開いている。また言葉かけにおいても注意を払うように心がけている		
		管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用	自立支援事業や成年後見人制度について今は対象者がいないので学ぶ機会を持っていないが今後必要となることもあると思うので学習していきたい		
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○ 契約に関する説明と納得	利用者や家族が納得をされるまで説明している。また質問しやすいような雰囲気作りを心掛けている		
		契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等の意見の反映	職場会議・かわち野だより・法人の運営委員会などで公表する機会を設けて運営に反映している		
		利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映	職場会議の中で直接意見を聞いたり、事前に意見等を聞き会議の議題にして出来るだけ反映するようにしている		
		代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、すれらを反映させている			
12		○ 就業環境の整備	シフト作成時には出来るだけ個人の希望を聞き入れ働きやすい職場づくりを心掛けている。職員も管理者の要求に答えてくれおり、意欲的、協力的である		
		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○ 職員を育てる取り組み	医療生協が進めている通信教育もほぼ全員が受講している。また認知症ケアに関する研修には職員全員が受講できるよう配慮している		
		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設間では交流する機会を持っているが、他の同業者とは一部の事業所を除いてはあまり交流出来ていないので地域包括センターへも働きかけて交流できるような体制作りを整備していきたいと思っている		
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開始段階は特に職員の方から寄り添って不安や要望等をくみ取れるよう働きかけ、早く施設に馴染んで頂けるよう取り組んでいる。また普段の生活の中でも不安なことがあれば職員が自室を訪問しマンツーマンで利用者のお話を聞くようにしている		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも家族が気軽に訪問できて話しやすい雰囲気作りを心掛けており、率直に要望等を聞かせていただけるよう、また反映出来るよう努めている		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の利用者に対する思いをくみ取りどのような支援が必要なのか見極めながらサービスを進めている。独居で認知症状があり、生活歴が殆ど把握できない状態で入居の場合はサービスを開始しながら本人にあった支援を職員一同で気づきの部分を意見交換しながら対応している		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を支援される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット全体が大きな家族と考え利用者が暮らしやすい生活の場を職員と共に考え工夫している。家事（料理・裁縫・手芸など）の中で利用者に生活の知恵を教えてもらいながら手伝って頂いている。誕生日には本人の好きな物を食して頂き皆でお祝いをしている		
19		○ 本人と共に過ごし支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は自室で家族との時間を過ごして頂いている。家族の利用者への思いや利用者の生活歴などをその都度お聞きしながら職員が共に家族と同じように本人に接することによって支援の方法を確認している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援	時間を制約しない訪問や電話の取り次ぎ、手紙や本人の写真入りの年賀状を作成し送ることにより交流を途切れないよう努めている。(自書出来る利用者は出来るだけ本人に、出来ない利用者でも氏名だけは出来る限り書いていただけるよう支援している		
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○ 利用者同士の関係の支援	職員が間に入ることでより利用者間の会話が弾むよう支援している。定期訪問がランティアの演芸会で歌・クイズ・踊りなどをほぼ全員の利用者で楽しんで頂いている		
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22	9	○ 関係を断ち切らない取り組み	利用者の家族から本人が使用されていた思い出の品物を頂いたり、四季に応じて本人が住んでおられた家の庭の梅を持って来て頂いたりして利用者の思い出話をしている		
		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○ 思いや意向の把握	一人ひとりの目線に合わせてながら希望、意向の把握に努めている。お菓子好きの利用者には一緒におやつを買いに行き自室にて食していただいている		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している			
24		○ これまでの暮らしの把握	本人・家族に機会がある毎に確認したり意思表示の困難な利用者は職員が日々接する中で把握していくようにしている。お仏壇も複数持って来られており自分で祀る事が難しい場合は職員が支援しながら祀っていただいている		
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○ 暮らしの現状の把握	食事以外の時間は自室やリビングで自由に過ごされ、掃除や体操・散歩等の際には声をかけ出来るだけ参加していただくようにしているが本人の意思を尊重し強制はしない。自室にこもりがちな利用者には職員が訪室して会話をしたり、リビングの方へ出てきて頂き気分転換して頂く		
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の、現状の把握に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング	本人・家族等と話合ったり、職員間で気づいた事をモニタリングし職場会議で検討して介護計画を作成している。また困難事例に関しては事例検討会も状況に応じて開く事もある		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○ 個別の記録と実戦への反映	日々の様子やケアを個人毎に記録し申し送り表・介護支援経過記録と共に職員間で情報を共有している。また問題が発生した時は意見を出し合い対処方法などを検討して支援方法が変更になった時も介護支援経過に記録している		
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	かかりつけ医以外の受診に際しても診療所の協力を得て送迎が可能な限り対応している。リハビリの必要な利用者や歯科の通院が困難な利用者には訪問を依頼している		
		本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○ 地域資源との協働	地域の四季折々の色々な行事に参加したり、動物好きの利用者には近くで飼われているペットと触れ合ってもらったりしている		
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○ かかりつけ医の受診診断	入所時にかかりつけ医の確認を必ず行ない提携医療機関（法人内）への変更を希望される場合は往診・通院の援助を行っている。また遠方のかかりつけ医の場合は家族に対応して頂いている		
		受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している			
31		○ 介護職員との協働	看護職員の配置はないが法人内の診療所の医師や看護師等には気軽に相談できる体制になっている。また薬局に関しても同様であり薬の内容の確認等指示も受け知識を得ている		
		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 又はそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先に様子を見に行き直接病院関係者からの情報を得ている。長期にわたる場合は病院のケアカンファレンスにも参加して情報交換している		
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では対象者はいないが、重度化した場合などは家族や医療機関とも話し合いを行ない方針を共有してチームで支援していきたい		
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の連絡は連絡マニュアル等で確認している。通報手順も電話のすぐそばに掲示している		
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の指導のもとに避難訓練も行なっている。施設の周辺は民家が少ないので協力の依頼はしているがしっかりした協力体制が確立していない。今後は家族・組合員等も交えた助け隊を確立していきたい		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○ 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを尊重し言葉かけには気をつけ対応しているが、時には職員のペースで対応している場合もあるように感じる。職員会議などで再度徹底して共有していきたい		
37		○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り働きかけて希望等表出しやすい環境を作って対応している。外出願望のある利用者には1日に数回個別に買い物や散歩に同行し対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○ 日々のその人らしい暮らし	起床時間・朝食時間は定めず一人ひとりに合わせた対応で起床され食事されている。外出希望の利用者には外出援助を時間帯を決めずに対応している。自由に自室にも戻っておられる	/	/
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している			
39		○ 身だしなみやおしゃれの支援	隔月の訪問散髪で本人の希望に沿って顔剃りやカットをされている。行きつけの美容院に行かれる利用者もある	/	/
		その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援している			
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援	一緒に味噌汁やおやつを作ったりしている。テーブル拭き・配膳・食事の後片付けなど出来ることを分担して手伝って頂いている	/	/
		食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている			
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援	咀嚼機能が低下している利用者には一口サイズの刻み食で対応している。個人の摂取記録を確認しながら水分量の少ない利用者には好みの飲み物を好みの温度で促しながら摂取して頂いている。献立によって好みのおかずがないため摂取量が少ない場合は好みの食べ物を食して頂いている	/	/
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○ 口腔内の清潔保持	食後の歯磨き・義歯の洗浄は必ず誘導して行ない口腔状態の確認もしている。認知症の進行により口腔ケアが困難になってきた利用者には訪問歯科を依頼し口腔内の清潔保持に努めている	/	/
		口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている			
43	16	○ 排泄の自立支援	排泄記録を基に一人ひとりの排泄間隔等を把握し尿意の少ない利用者には時間を見計らって声をかけ誘導している。夜間はリハパンであっても日中は出来るだけ下着を着用して頂きトイレでの排泄を目指している	/	/
		排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている			
44		○ 便秘の予防と対応	便秘気味の利用者には排便作用のある飲食物を多く摂取して頂いたり、排便を自己管理出来ない利用者には排泄記録を基に時期を見計らって便秘薬の配薬を行なって対応している	/	/
		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の健康状態を観察しバイタルチェックを行ってから入浴を促している。入浴日を決めている利用者もおられる。安全にゆっくり入浴して頂くために入浴時間は職員の配置が一番多い時間帯に決めている		
		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後安眠作用のあるホットミルクなどを摂取して頂き一人ひとりの入眠時間になるまでリビングでテレビ等を見ながらコミュニケーションをとっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はいつでも内容を確認できるように説明書を個人記録と同じ場所に保管してある。服薬時は職員が必ず氏名・日付を確認してから服薬を促し最後の服用まで確認している。薬の開封が出来る利用者は見守りながら出来るだけ開封して頂く		
		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季に応じた行事・誕生日会・ドッグセラピー・映画会などを企画し単調にならないように工夫している。コーヒー好きの利用者には食後のコーヒーをお出ししている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天の日や本人の希望により外出したい時には職員と一緒に近くにある遊歩道・神社・公園への散歩やスーパーなどでの買い物に出かけている。地域の季節の行事（初詣・節分・お祭りなど）や春の遠足も実施して家族と共に楽しんで頂いている。家族と近くの飲食店で食事をされている		
		○お金の所持や、使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	本人が管理出来ている場合は所持されており買物時には本人が支払っている。管理が困難な利用者は施設が一時立替えることで買い物を支援している		
50					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している	電話はいつでも取り次いだりかけたりしている。手紙が届いた場合は職員が支援しながら返事を出している。施設側からは年賀状（本人の写真入り）や暑中見舞いを本人が書ける場合は書いて頂いている。また無理な場合でも氏名だけでも自書して頂けるよう支援している		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、温度など）が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている	四季を通じて季節の花を飾る。壁に季節感のある飾り物を利用者と共に創って飾る。季節の行事の食べ物（1月ならおせち・七草がゆ・ぜんざいなど）も用意して季節感を味わって頂いている。南向きのリビングなので日当たりも良く明るいので開放感がある。温度・湿度計を設置し出来るだけ調整しながら過ごして頂いている。毎日利用者と共に掃除をしている		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビを設置したりソファの配置を工夫している		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や大切な仏壇・好きな花やカレンダーなどを配置されている。居室にテレビを設置されている利用者はゆっくり自室で見ておられる		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを取り付け安全に歩行出来るようにしている。トイレや浴室などは大きな字で表示し分りやすくしている。居室ではベッドでの起居動作が低下した利用者は種類や高さを変えたり立ち上がりを楽しめるためテーブルの位置を変えて工夫している		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができています	○	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族の2/3くらいが ③ 家族の1/3くらいが ④ ほとんどいない